

HP作成テクニックの紹介 (見栄えのする写真撮影)

見栄えのするHP掲載写真の撮り方(基礎編)

2018-06-12

本部HP委員
日本写真協会会員
村松克芳

《カメラの設定》

記録モード

Jpg

ピント合わせ

オートフォーカス

露出

AEオート若しくは、絞り優先モード、シャッタースピード優先モードの活用。またはプログラムモード)
露出補正は、AEオートでは調節できないので、絞り優先モード・シャッタースピード優先モード・プログラムモードにし、撮影。

ISO感度

オートでもよいが手持ち撮影では、ISO感度800~3200を常用感度としたい。
手ぶれを最小限に抑えるため、シャッタースピードを速くしたいので、高感度を維持させたいため。

ホワイトバランス

オートと太陽光(晴天)モードの使い分け
オートで撮影すると青みの強い写真になりやすい。青みの強い写真は、すっきり感が得られるが、露出がアンダー気味だと暗いイメージの写真になりやすい。

《撮影の仕方》

シャッタースピード

手持ち撮影を考えると1/125以上の設定としたい。可能ならば1/1000程度ほしい。

被写体ブレとカメラブレ(手ぶれ)

手ぶれ補正機能が精度アップしてブレにくくなったが、被写体ブレは、別。

被写体ブレを起こさないためには、やはり高速シャッターで撮影する必要がある。

(作品作りのための効果的な被写体ブレは良いが・・・)

ISO感度

ISO感度はオート設定でもよいが、カメラが露出を決める際、手ぶれを考慮せずシャッタースピード、絞り、ISO感度の三つのパラメータを組み合わせ、最適露出になるよう設定しているため、設定値によっては、シャッタースピードが遅くなっている可能性もある。

可能であればISO感度のオート設定を外しISO感度800ぐらいで撮影したい。

但しオートを外すには、露出設定オートを外し、プログラムモード・絞り優先モード・シャッタースピード優先モードとする必要あり。

周囲が暗く、被写体も暗い場合、フラッシュを焚くことも、時と場合によっては必要だと思うが、ISO感度を上げ、シャッタースピードが落ちない工夫が必要。

但しISO感度を必要以上に上げると、ノイズが多くなり画質が落ちる可能性あり。

46

画像サイズ

画像サイズは1000ピクセルぐらいが良い

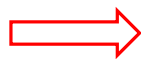
ディスプレイのピクセル数は、規格XGAで1024×768 (SVGAで800×600、フルHDで1900×1080)。

カメラの画素数設定は、800×600ピクセルあればOKだが、撮影後のトリミングを考えると、

1000×750ピクセル(アスペクト比4:3)で撮影したい。

この画質(解像度)で75万画素なので2LサイズのプリントまでOK。

A4サイズだと1600×1200ピクセルで192万画素はほしい。



画像サイズが小さいと、拡大すると画像が荒れていることがわかる。

色調を調整



画像サイズが小さいと、拡大すると画像が荒れていることがわかる。

47

露出補正

露出補正機能は、露出設定がオート(AE)では、設定できないが、オートを外し、プログラムモード・絞り優先モード・シャッタースピード優先モードにて撮影することで露出補正することができる。



画像が暗い



露出をプラス補正し明るくする



画像が暗い

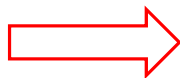


露出をプラス補正し明るくする



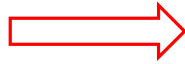
窓のある部屋・背景が明るい場所での撮影

被写体の背景が窓のように明るい背景になると被写体が暗くなりやすいので注意。できる限り窓の外の良いところが入らないようにフレーミングするとよい。やむを得ない場合はフラッシュを使用。日中シンクロの活用



ホワイトバランス

料理の撮影は、ホワイトバランスを太陽光(晴天)で撮影するとおいしさが増した写真となりやすい。
但し、電球の下での撮影は、黄色かぶりが多くなるので注意が必要。
(そのような場合は、ホワイトバランスオートの方が良い場合も有るので状況を見ながら撮影)



50

生き生きとした動きを追う

笑顔の写真をスナッピング。



子供の撮影は子供の目線に！



51

空は、画面の1/3~1/4以下



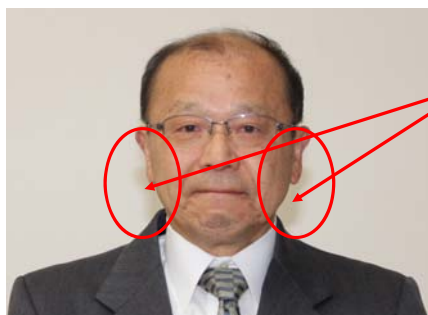
空の面積は極力少なくする



斜光の活用



壁をバックにした集合写真でフラッシュを使う場合
被写体と壁の間は、1 m(できれば2 m)以上空けましょう

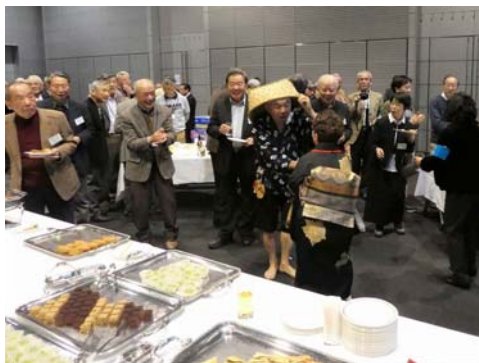


影ができてしまうので壁から離れて撮影

支部行事等のイベントでのスナップは、前から若しくは斜め前から撮影しよう。



後ろ向きより
前からの撮影を！



構図上 首切りと串刺し(つの)、目刺しはNG



串刺し



首切り



トリミング

作品造りのためのトリミングは、作画意図が甘くなるのでやらないほうが良いが、HP等広報用の場合は、不応なものをカットする程度のトリミングはOK。
但し過度のトリミングは画素数が減るので画質が悪くなるので注意。

画像レタッチ

画像レタッチをする場合は、ディスプレイの色味をきちんとキャリブレーションしてから行ってください。レタッチをすることを前提とした場合の撮影は、高画素で撮影記録した画像データとし、レタッチをしてからHPサイズ(800×600)にリサイズすること。小さいサイズでレタッチするとカラーノイズや、モスキートノイズ、ブロックノイズが出やすいので要注意。

会報掲載用写真・HP掲載用写真

印刷用の画像の色調は、印刷業界の基準色温度が5000° Kであり多少黄色味がプラスされた色味になるので、会報掲載用写真原稿は、多少青みを引いた写真原稿が良い。
且つ白飛びしない範囲で明るい写真が望ましい。
HP用写真も多少青みを引いた明るい写真の方が見栄えがする。
青みが強いとクリアーだが、温かみの欠ける暗い印象になりやすいので(青の色味にもよるが)多少黄色味のある写真の方が温かみのある印象が出てきて好ましくなる。